

令和6年度 富士見小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

心豊かで健やかな体を持ち、創造性豊かに自ら学び自ら考え、主体的に判断し行動し、よりよい社会の発展を目指して、たくましく生きる児童の育成を目指す。

（2）具体目標

- 心豊かで、思いやりのある子ども（心豊かな子）
- よく学び、工夫する子ども（よく学ぶ子）
- 健康で、たくましい子ども（たくましい子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童と教職員の望ましい人間関係を基盤に、確かな児童理解に裏打ちされた、一人一人のよさや強みをほめて伸ばす指導を通して、児童の多様な個性・能力を最大限に伸長する。また、支え合い高め合える集団を形成して、すべての児童が自信と誇りの持てる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

教育目標の具現化を目指し、教職員が一丸となって居がいと活力のある学校づくりに努める。

（1）認め励ます指導を基本とした心の教育の推進

- ・ 自己有用感、規範意識、他者を思いやる心の育成及び組織的な指導の充実
- ・ 道德教育を核に、教育活動全体を通した豊かな心やたくましい心の涵養

（2）基礎・基本の確実な習得と主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

- ・ 「宇都宮モデル」の活用を通した主体的・対話的で深い学びの推進
- ・ ICT環境の有効活用等を通した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実

（3）健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成

- ・ 教科体育、元気っ子チャレンジや各種検定、食育等の校内共通した取組の充実
- ・ 危険を予知し、自らの命を守り抜くための判断力や行動力の育成

（4）教職員の資質・能力の向上と働き方に関する改善

- ・ 協働的な同僚性による校内研修や教職員どうしの学び合いの充実
- ・ 協働体制による業務の適正化を通したワークライフバランスを意識した働き方の推進

（5）地域とともにある学校づくりの推進

- ・ 地域の教育資源を生かした教育活動の展開と家庭・地域と連携した学びの実践
- ・ 学校園における小中の連携と、義務教育9年間を一体とした指導の推進

【宮の原地域学校園教育ビジョン】

「心豊かで輝く子どもの育成 ～ほめて伸ばす（自己肯定感を高める）～」

4 教育課程編成の方針

- ・ 新学習指導要領をはじめとして、関係法令、国、県、市の方針や重点及び本校の実情や課題を踏まえ、教育目標の具現化を目指した教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営

- 確かな児童理解に裏打ちされた、一人一人のよさや強みをほめて伸ばす指導の充実
 - ・ 校内の業務の適正化や ICT 環境の有効活用を通した学校における業務改善の推進

（2）学習指導

- 自ら考え、表現し、学び合う児童の育成
 - ・ 意欲を高め、学びを広げ深めることのできる授業づくりの推進

（3）児童生徒指導

- よりよい生活集団づくりを通した、規範意識と自己有用感の育成

(4) 健康(体力・保健・食・安全)

○ 体力の向上を目指して運動に親しみ、健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 85%	①一人一人が自由に発言できるような学習集団作りに努めるとともに、ねらいを達成させるための適切な学習形態を工夫し、考えや表現を広め深める対話的活動を設定することで、コミュニケーション力を育成する。 ②課題の提示や教材の工夫をし、さらに主体的に学習に取り組めるようにする。 ③教育課程の円滑な実施のため、主体的、対話的で深い学びについての実践研究を行う。	B	【達成状況】 児童 89.5% 教職員 97.1% 保護者 86.3% ・教職員の肯定的回答率が97.1%で、目標値を上回った。 ・ペアやグループ活動を適宜取り入れながら、ICTを効果的に活用して話合っていた。 ・児童に身近な話題を取り上げるなど導入の工夫を行うことで、主体的に学習に取り組む様子が見られた。 【次年度の方針】 ・教師のコーディネート力を高めることにより、児童の主体的、対話的で深い学びに向かう授業づくりに努める。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 教職員 85%	①体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ②児童会や清掃における縦割り班活動等を通して、相手の立場を考えた思いやりの心を育む。	B	【達成状況】 児童 89.2% 教職員 91.2% 保護者 93.5% 地域住民 100.0% ・教職員の肯定的回答率が91.2%で、目標値を上回った。 ・縦割り班や人権週間などの活動が充実し、加えてまごころカードや道徳科の授業を通じて、思いやりの心を育んできた。 【次年度の方針】 ・今年度に引き続き、まごころカードや帰りの会で自他の良さを認め合う機会を多く設けたり、道徳科の授業や人権教育、縦割り班活動を通じて、他者の良さに目を向けたりして、思いやりをもって相手の立場を考え、多様性を受け入れることのできる教育を目指す。
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童 85%	①授業や各種検定等において、児童が主体的に目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ②道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。	B	【達成状況】 児童 86.2% 教職員 97.1% 保護者 77.5% ・児童の肯定的回答率が86.2%で、目標値を上回った。 ・学習や生活、各種行事において、身に付ける力などの説明をしたり、めあての設定や振り返りを行ったりすることで、自分の頑張りを気付かせ、達成感を感じられるようにした。また、目標に向かって努力している児童を認め、励ます指導に努めた。 【次年度の方針】 ・すべての教育活動において、児童が主体的に目標に向かって取り組めるような場を適宜設定し、支援していく。また、振り返り活動を密に行い、目標への達成状況を確認できるようにする。

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 教職員 85%	①運動委員会を中心に元気っ子チャレンジに挑戦する場を設定するとともに、授業において、サーキットトレーニングや活動量を確保できるような展開を工夫して行い、目標をもって積極的に運動を実施することで、体力向上への意欲を高める。 ②望ましい食習慣を身に付けさせるために、毎日の給食指導を着実に実施し、栄養のバランスについての指導を行う。 ③危機を予測し自らの命を守り抜く判断力・行動力の育成に向けて、職員全体で共通理解しながら、安全指導の充実を図ったり、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施したりする。	【達成状況】 児童 90.8% 教職員 94.1% 保護者 90.0% 地域住民 100.0% ・教職員の肯定的回答率が94.1%で、目標値を上回った。 ・運動に親しむ機会を作るために、運動委員会を中心とした元気っ子チャレンジを企画運営した。各種検定については、各学年の実態に応じて実施した。 ・日常の給食指導の中で、食に興味・関心がもてるように、放送や一口メモを活用することで、児童が食の大切さへの意識を高めることができた。 ・安全教育を計画的に実施することにより、避難訓練などの際には、真剣に自ら命を守る行動している様子が見られた。交通安全教室の際には、自分自身の生活を振り返りながら、正しい交通安全の知識を身に付けようとしている様子が見られた。 【次年度の方針】 ・引き続き、体育科の授業において、サーキットトレーニングや活動量を確保できる授業展開を工夫して、体力の向上に努める。 ・ランチルーム給食を利用し、噛み応えのあるおやつを提供することを通して、よく噛むことの大切さを指導していく。 ・屋内外での適切な過ごし方や遊び方について、各学級での安全指導を徹底する。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童 85%	①日々の学習や生活で振り返りの場面を設け、自分の成長や変化について自分自身で考えたり、友達に教えてもらったり認めてもらったりして、気付かなかった自分の成長を実感できるようにする。 ②自分の長所や短所を様々な方法で理解させるとともに、それを自分の個性として大切にしていこうとする態度を育てる。 ③道徳や特活を通して、友達の成長を願い、励まし合い、高め合おうとする態度を育てる。	【達成状況】 児童 88.3% 教職員 100.0% ・児童の肯定的回答率が88.3%で、目標値を上回った。 ・学習の中で、ペアやグループ活動を意図的に取り入れ、自分の考えを友達に伝えたり、友達の意見と比べたりすることで互いのよさに気づき、協力して生活する姿が見られた。 ・日々の生活の中での振り返りの場を大切にすることで、児童が自分の成長に気付くことができた。 ・児童の頑張りを認め、新たな課題を与えるなど、成長を促す支援をしたことで、自らを高めていこうとする児童の姿が見られた。 【次年度の方針】 ・引き続き振り返りや学習形態の工夫を行うことで、児童が自分や友達のよさに気づき、協力することができるように支援をする。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童 85%	①相手意識や目的意識を大切にしたい外国語活動の授業を通して、英語で伝え合う楽しさを感じ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②打ち合わせを綿密に行うことでALTとの連携を充実させるとともに、外国語専科による授業を行うことで、児童の興味・関心を喚起させる授業づくりに努める。	【達成状況】 児童 83.5% 教職員 94.1% ・児童の肯定的回答率が83.5%で、目標値を下回った。 ・コミュニケーションを図ることを楽しんでいる様子が見られ、意欲的に授業に取り組んでいた。 ・既習の表現を用いたり、表したいことを言い換えたりする力に課題がある。 【次年度の方針】 ・英語をより主体的に使って、会話ができるような授業づくりに努める。

	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童 85%	①生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や校外学習等において、学習内容と関連させながら、児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導を系統的に行えるように努める。 ②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	【達成状況】 児童 82.7% 教職員 85.3% 保護者 74.1% ・児童の肯定的回答率が 82.7%で、目標値を下回った。 ・社会科、宇都宮学の副読本やインターネットでの調べ学習、出前授業、校外学習を通して、身近な地域や宇都宮の良さに気付くことができた。 B ・身近な地域、宇都宮の良さに気付かせる教師の働きかけが引き続き必要である。 【次年度の方針】 ・校外学習や地域教材、出前授業を通して、宇都宮の良さや特産物等について、興味・関心を高められるようにする。 ・社会科や生活科、総合的な学習（宇都宮学）、道徳を中心に、自分の住んでいるところの良さを意識付ける。
2-（2） 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童 85%	①児童が情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的に I C T 機器を活用する。 ②辞典の使い方や図書資料での調べ方等について学校図書館司書を授業に活用し、図書室利用の充実を図る。 ③授業の中で 1 人 1 台端末の効果的活用を図るとともに、プログラミング教育の計画的な実践に努める。	【達成状況】 児童 85.1% 教職員 100.0% 保護者 82.7% ・児童の肯定的回答率が 85.1%で、目標値を上回った。 ・端末を授業で使用したり、長期休業の際には、AI ドリル等を宿題に出すなどして、活用したりすることができた。 B ・教科書の内容に合わせて図書資料を学習に活用できた学年が多かった。 【次年度の方針】 ・調べ学習だけでなく、自らの考えを表現したり、学びを振り返ったりするなど、多様な場面で使用できるようにしていく。
2-（3） 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童 85%	①植物の世話やごみの分別、牛乳パックのリサイクル等を通して、環境に対する意識を高められるようにする。 ②地球温暖化に伴う過去の災害の具体事例を伝える活動や避難訓練などを通して、防災意識を高め、防災教育を充実する。	【達成状況】 児童 87.5% 教職員 82.4% ・児童の肯定的回答率が 87.5%で、目標値を上回った。 ・植物の世話やごみの分別、牛乳パックのリサイクル等を通して、環境に対する意識を高める指導をした。 ・授業で SDGs を取り扱い、環境への意識を高めた。また、竜巻訓練では、過去の災害の様子を写真で見せるなど災害の恐ろしさを事前に伝えることで、真剣に取り組むことができた。 B 【次年度の方針】 ・日々の給食指導や清掃活動を通して、環境問題に対する意識を高めていく。 ・より実践的な災害状況を想定し、防災訓練を継続する。 ・日々の給食指導や清掃活動を通して、環境問題に対する意識を高めていく。 ・より実践的な災害状況を想定し、防災訓練を継続する。

3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員 85%	①教育相談や個人懇談等を計画的に実施し、一人一人のニーズや実態を踏まえた支援に努める。 ②他学級との授業交換や学年合同の活動を行い、広く児童理解・学業指導に努め、児童が教師及び児童相互の信頼関係を深めながら、学校生活が送れるようにする。	【達成状況】 教職員 97.1% ・教職員の肯定的回答率が97.1%で、目標値を上回った。 ・今年度も年2回の教育相談や児童指導研修を通して、児童が安心感や満足感を得ることができた。また、それらを通して、教職員と児童の信頼関係を構築することができた。 ・学年会や校内支援会議を通して、個々のニーズや実態を把握し、外部機関や家庭との連携を図りながら、広く児童理解に努めた。 【次年度の方針】 ・様々な教職員が一人一人の児童に関わり、信頼関係を築きながら、児童の実態を十分に把握すると共に、職員間や外部機関との共通理解を図り、児童がよりよい学校生活を送ることができるよう、適切な支援を講じていく。
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童 85%	①確かな児童理解に基づいた、児童にとって居がいのある学級づくりや道徳の授業実践などを通していじめを許さない態度の育成を図り、いじめの起こらない環境づくりに努める。 ②学校生活アンケートや教育相談の実施、職員間で定期的な情報交換の場を確保することで児童や学級についての共通理解を図り、いじめの早期発見・早期対応に努める。また、いじめ等対策委員会を設置し、組織的な対応を図る。 ③携帯電話やメール等、情報モラル教育の強化に努めるとともに、「いじめゼロ強調月間」における取組や「宮っ子心の教育」に係る児童会主体の活動の充実を図り、保護者にも学年だよりなどを通じて啓発を行う。	【達成状況】 児童 95.2% 教職員 97.1% 保護者 80.9% 地域住民 90.0% ・児童の肯定的回答率が95.2%で、目標値を上回った。 ・日々のかかわりや教育相談、定期的なアンケートの実施を通して、児童の実態把握に努めることができた。また、気になる事案については職員間で情報を共有し、協力して支援・指導に取り組んだ。 ・Q-U検査を行い、学級の実態を把握し、いじめの早期発見・早期対応に努めた。 ・学級での日常的な指導や道徳科の授業、「いじめゼロ強調月間」の実施などを通して、「いじめはいけないうことである」という児童の意識が高まった。 ・スマートフォン・携帯電話の利用に関する出前講座を土曜授業に行ったことで、親子で話す機会をもつことができ、情報モラルの意識が高まった。 【次年度の方針】 ・次年度も継続して取り組んでいくとともに、学校での取組を保護者に知らせる機会を増やせるように努める。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 教職員 85%	①児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに認め励ます指導を行い、居がいのある学級経営に努める。 ②教育相談、Q-U調査、定期的な校内アンケート等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と、校内全体での情報共有を図る。	【達成状況】 児童 93.5% 教職員 100.0% 保護者 87.7% ・教職員の肯定的回答率が100%で目標値を上回った。 ・不登校の兆しを早期に発見し、適切な支援を行うことができるよう、学年会や校内支援会議を実施し、学校全体で対応した。また、必要に応じて、スクールカウンセラーや、外部機関との連携を図り、組織的に対応できた。 【次年度の方針】 ・児童にとって、所属感や連帯感を感じられる居心地の良い学級・学校づくりに努めると共に、不登校や不適応傾向の児童の早期発見や、適切な支援、すみやかな情報共有を徹底する。

3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大 切にされ、活気があり、 明るくいいきとした雰 囲気である。 【数値指標】 保護者 85%	①学校行事等において、児童が主体的 に活動する場を工夫して設定し、活 気あふれる学校づくりをする。 ②誰もが居場所を確保できる学級経営 に努める。 ③授業では、学習意欲を高める多様な 体験的学習の工夫をする。 ④縦割り班活動や学年での活動、及び 日常的な交流活動を工夫して可能な 限り実施し、児童が意欲をもって活 動できる場を設定する。	B 【達成状況】 児童 92.7% 教職員 100.0% 保護者 84.5% 地域住民 100.0% ・保護者の肯定的回答率が 84.5%で、目 標値を下回った。 ・児童が学校行事や縦割り活動の企画・ 運営を行い、主体的に活動できるように した。 ・Q-U 検査や教育相談の時間を有効 に活用し、居心地のよい学級経営に努め た。 【次年度の方針】 ・児童の実態や発達段階に応じた学習 の仕方を工夫し、児童が主体的に活動で きる場を設定する。 ・認め励ます指導を行い、一人一人を大 切にした学級経営に努める。
4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や児童にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 児童 85%	①『はっきり』『じっくり』『すっきり』 という指導過程の授業を展開し、教 材研究に努めるなどして分かる授業 の充実を図る。 ②個・学級・学年の実態を把握すると ともに、上学年以上の算数でTT や少人数指導など、学習形態の工夫 を図り、個に応じたきめ細やかな指 導を行う。 ③教員の指導力の向上を目指し、研究 授業や授業後の研究会及び、実技研 修等を実施して、校内研修の充実を 図る。 ④各学年の発達段階に応じて宿題の出 し方を工夫したり、「家庭学習のすす め」を家庭に配付したりして、保護 者の協力を得て、家庭学習の習慣化 を図る。	B 【達成状況】 児童 95.1% 教職員 100.0% 保護者 85.5% ・児童の肯定的回答率が 95.1%で、目標 値を上回った。 ・高学年で教科担任制を取り入れるこ とで、専門性を生かした授業を行うこ とができた。 ・上学年以上の算数で、TTや習熟度別 学習を取り入れ、個に応じた指導を行 ってきた。 ・家庭学習強化週間（2回）の実施によ り、家庭学習の習慣化、周知を図った。 家庭学習時間や自主学習の意識が高ま り、意欲的に取り組んでいた。 【次年度の方針】 ・「家庭学習のすすめ」を活用し、家庭 学習の内容が充実するよう指導する。 ・今年度に引き続き、TTや習熟度別学 習を効果的に行っていく。
4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力し て業務に取り組んでい る。 【数値指標】 教職員 85%	①互いを認め合い、補い合い、高め合 う同僚性を有する教職員を目指し、 課題への対応や行事の運営等に、全 教職員が一丸となって取り組む。 ②自己評価シートの作成を通して学校 運営への参画意識をもち、担当校務 分掌に主体的に取り組み組織的な運 営に努める。	B 【達成状況】 教職員 97.1% ・教職員の肯定的回答率が 97.1%で、目 標値を上回った。 ・学年主任が中心となり、教職員が互 いに協力し合う集団となることので きた。 ・課題に直面したときには、学年対応 、学校対応のもと、意見を出し合い組織 で対応することができた。 【次年度の方針】 ・今後も、教職員が「チーム富士見」を 意識し、担当分掌に主体的に取り組むと ともに、互いに支え合い、認め合う温 かな人間関係・職場構築に努める。

4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 85%	①学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ②業務改善に向け、各種行事等の内容の精選や実施後に反省を行うなど、実施方法の改善を行う。 ③ミライム掲示板による教職員間の連絡や、さくら連絡網によるペーパーレス化に向けた取組を行う。 ④月1回、「リフレッシュウィーク」を設け、働き方改革への意識化を図る。	B 【達成状況】 教職員 82.4% ・教職員の肯定的回答率が82.4%で、目標値を下回った。 ・昨年度に比べ約14ポイント上昇した。特に、さくら連絡網利用によるペーパーレス化により、便り等の印刷業務が削減されたことが主な要因と見られる。 ・教職員は、分掌業務や学級事務等、多くの業務を抱える中、勤務時間を意識して業務を遂行しようと努めていた。 【次年度の方針】 ・コロナリカバリーを視野に入れながら、コロナ前に戻す取組、コロナを機に見直し、今後もそのまま継続する取組と、判断していく。 ・教育活動の「ねらい」を明確にし、「全ては子供たちのために」という信念のもと、業務に専念していきたい。 ・教職員の月1回「リフレッシュウィーク（定時退勤を目指す週）」を確実に実行できるよう、学校全体で取り組む。
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 教職員 85%	①地域学校園教育ビジョンに基づき、各分科会で適切なテーマを決め、適切な活動を行う。 ②小中合同の取組を行う。(あいさつ運動、お弁当の日、小中統一給食献立の実施、食育だよりや学校園図書館だよりの発行等) ③6年生の進学先中学校訪問により、進学への不安感を解消し、希望・期待感を高める。 ④小中一貫教育に関する取組について、各種便りや学校ホームページで地域や保護者に発信する。	B 【達成状況】 児童 86.7% 教職員 88.2% 保護者 74.3% 地域住民 80.0% ・教職員の肯定的回答率が88.2%で、目標値を上回った。 ・「小中一貫合同あいさつ運動」、「学校園統一お弁当の日」、「学校園統一給食献立」、「学校園食育だより」、「学校園図書館だより」の発行、「6年生の進学先中学校訪問」等、昨年度と同様に、多くの取組を行うことができた。 ・今年度も、中学教員による、小学校への乗り入れ授業（英語）を実施することができた。 【次年度の方針】 ・来年度は対面やオンライン等を検討し、地域学校園の教員同士が情報交換する場を増やすなど、積極的な交流を行う。 ・乗り入れ授業については、英語以外の教科の授業の実施も検討していく。 ・地域学校園の小中一貫教育に関する取組については、以前から情報発信に課題がある。地域の方へは学校HP閲覧を勧める広報活動の推進、児童や保護者の方へは1人1台端末クラスルームにおける各種便りの配付状況等を伝える。
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充	①地域協議会等と連携を図り、新たな地域人材の募集などを行いながら、学校支援ボランティア（学校のまわ	B 【達成状況】 児童 88.9% 教職員 100.0% 保護者 91.9% 地域住民 100.0%

5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	実を図っている。 【数値指標】 保護者 85%	り探検の補助や各種学習支援ボランティア等)を活用した授業を計画的・継続的に実施する。 ②地域にある県立博物館・中央公園・市立図書館・文化会館・気象台等の文化施設を積極的に授業に活用する。 ③企業等との連携を図った体験型学習を積極的に実施する。 ④地域協議会・家庭・地域・企業等と連携した教育活動に関する取組について、各種便りや学校ホームページで地域や保護者に発信する。	・保護者の肯定的回答率が91.9%で、目標値を上回った。 ・地域コーディネーターと連携を図り、「読み聞かせ」や「夏休みの作品整理」、「ミシン学習」、「図書館掲示物作成」、「生活科や社会科校外学習の見守り」等、多くの学習支援ボランティアの方々の協力を得て、地域や保護者の教育力を生かした活動を行うことができた。 ・市主催の「ふれあい文化教室」、社会福祉協議会による「出前福祉講座」、「オンライン日産工場見学」、「県立博物館昔の暮らし出前講座」、「宮っ子夢教室（キャリア教育）企業の方による講話」等、体験学習を積極的に実施することができた。 ・体験学習を実施したときには、学年により等で事前・事後に周知を図った。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き、地域の教育力を最大限に生かした授業を計画し実行していく。 ・地域協議会・家庭・地域・企業等と連携した教育活動については、各種便りや学校HPをとおして、地域や保護者に積極的に発信する。
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員 85%	①日常的に校内巡視を行うと共に定期的な安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③さくら連絡網での保健だより等を活用して、教職員と保護者で共通理解を図りながら、熱中症予防対策、感染症蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	【達成状況】 教職員 100.0% 保護者 91.0% 地域住民 100.0% ・教職員の肯定的回答率が100%で、目標値を上回った。 ・生活当番の教職員を中心に、校内巡視を行ったり、定期的な安全点検により、危険箇所を把握し、速やかな修繕に努めたりした。 ・計画通りに避難訓練等を実施し、備えを万全にした。 ・WBGT の指数を全校に分かるように掲示し、熱中症対策に努めた。 【次年度の方針】 ・昨年度に引き続き、ミライムや保健だより等を活用して教職員が共通理解を図り、時期に応じた保健指導や環境づくりをより一層進めていく。 ・毎月の安全点検を確実にし、労務主事や機動班等と連携しながら迅速な対応を進める。
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 教職員 85%	①各クラスで活用できるようICT機器の充実を図るとともに、ICT支援員と連携し、1人1台端末の効果的な活用について校内で研修を行う等、ICT機器活用における環境整備に努める。 ②各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。	【達成状況】 教職員 97.1% ・教職員の肯定的回答率が97.1%で、目標値を上回った。 ・学年間で情報を共有しながら、効果的にICT機器を活用した。 ・情報主任を中心に多様な活用方法について研修を行い、環境整備に努めた。 【次年度の方針】 ・引き続き、ICT支援員と連携しながら1人1台端末の効果的な活用方法を学んでいく。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 教職員 85%	①あいさつの大切さについて啓発したり、教職員が積極的に児童にあいさつをしたりすることで校内外でのあいさつの習慣が十分に身に付くよう指導する。 ②あいさつボランティアや委員会活動、学級での日常生活など様々な機会を通じてあいさつの推進を行い、あいさつの習慣化を図る。 ③よりよいあいさつや返事の仕方、言葉づかいについて日常の指導の徹底を図る。 ④宮の原地域学校園全体であいさつ運動を実施する。	B 【達成状況】 児童 89.4% 教職員 94.1% 保護者 83.3% 地域住民 100.0% ・教職員の肯定的回答率が 94.1%で、目標値を上回った。 ・あいさつの大切さを指導したり、教員から積極的にあいさつをしたりしたことで、校内でのあいさつの習慣が身に付きつつある。 ・委員会活動の一環としてあいさつ運動を行い、あいさつの習慣化を図ることができた。 ・宮の原地域学校園であいさつ運動を実施することで児童へのあいさつの啓発を行った。 【次年度の方針】 ・校外でのあいさつについて、登校指導のときや、日々の生活の中などで指導していく。 ・委員会活動などを通して、児童を主体とするあいさつ運動などの活動を促進していく。
	B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 教職員 85%	①児童の規範意識を高め、皆が安心・安全な学校生活を送れるよう、職員が「みんなのやくそく（生活編）」の徹底を図ったり、生活当番活動による日常の生活指導の充実に努めたりすることで、同歩調で組織的・継続的な指導を行う。 ②道徳科の授業などを通して、児童がルールやマナーの意味や必要性について理解を深め、生活の中での実践力を育成する。 ③保護者との連携・協力を図り、児童理解に基づく個に応じた適切な対応に努める。	B 【達成状況】 児童 91.0% 教職員 88.2% 保護者 89.1% 地域住民 90.0% ・教職員の肯定的回答率が 88.2%で、目標値を上回った。 ・「みんなのやくそく（生活編）」を中心に、学校生活で必要なルールやマナーについて教職員が共通理解を図り、同歩調で継続的に指導にあたった。 ・生活当番の教員が、そのときの児童の実態に応じた生活目標を設定し、学校全体で意識できるようにしたことで、児童が課題意識をもって日々の生活を送ることができた。 ・道徳科の授業の中で、行事等と関連させて指導することで、ルールやマナーについて意識付けることができた。 【次年度の方針】 ・現在放送で行っている生活目標の周知を、児童がより意識できるよう、朝会などで行うようにする。 ・「みんなのやくそく（生活編）」の実施状況を振り返る時間を設けることで、児童の規範意識が高まるようにする。 ・学年集会できまりやマナーについて繰り返し指導を行うようにする。

B 3 児童生徒は、自己肯定感・自己有用感を育んでいる。 【数値指標】 教職員 85%		①児童生徒が自分を見つめる場や機会を設定することにより、自己理解や自己受容を進める。 ②児童生徒の長所や進歩、頑張りなどを認め、自分への肯定的な気付きを促す。(自己肯定感) ③係活動や当番活動の充実とグループ活動の意図的設定により、他者とかかわる中で、自分のよさに気付かせるようにする。(自己有用感) また、集団活動の中で個に応じた役割を設定することにより、所属意識を高める。(自己有用感) ④児童生徒の短所などを受容するとともに、短所も見方を変えたと長所になるという「リフレーミング」の考えを生かす。	【達成状況】 児童 79.0% 教職員 100.0% ・教職員の肯定的回答率が 100%で、目標値を上回った。 ・係活動や当番活動を充実させることで、児童一人一人が学級への帰属意識を感じられるよう支援をした。 ・教育相談などでは、「リフレーミング」の考えを生かし、児童の個性を認めながら、一人一人が自己肯定感を高められるような声掛けをした。 【次年度の方針】 ・児童が自己肯定感を高められるように、認め、励ます指導をより一層充実させていく。 ・朝の会や帰りの会、特別活動などで、児童が自分を見つめる場や機会を設定できるようにする。 ・児童の得意なことや長所を生かして友達から称賛されるような場を意図的に設ける。
B 4 児童は交通ルールを守って安全に登下校している。 【数値指標】 地域 85%		①地域・保護者・教職員が一体となって登下校指導や月 1 回の集団下校指導を実施する。その際、地区担当教員が登下校の様子を聞き、必要に応じて指導したり、一緒に下校したりして安全な登下校ができるようにする。 ②関係機関の協力を得て、交通安全教室を計画的に実施することで、自他の安全を守り、実践的な理解が深められるようにする。	【達成状況】 児童 93.7% 教職員 85.3% 保護者 91.2% 地域住民 90.0% ・地域の肯定的回答率が 90%で、目標値を上回った。 ・登下校における困っていること等を担当地区教員と共に解決する時間を定期的に設定して、登下校の安全やルールについて、共通理解を図った。 ・交通安全教室において、映像資料や実験等を用いたり、クイズを取り入れながら実施したりすることで、児童の意欲を高めながら安全指導を行うことができた。 【次年度の方針】 ・各学年学級で、継続的に安全指導を行い、地域とも連携しながら取組を推進する。 ・関係機関と連絡を密にとり、来年度も実践的な理解が深められるように努める。

	B 5 児童は学校や地域の為に積極的に働いている。 【数値指標】 児童 85%	①道徳の授業や係活動、委員会活動を通して、学校に愛情をもち、学校のために働き、学校を大切にしようとする心を育てる。 ②縦割り班清掃にめあてをもって取り組むことで、よりよい環境づくりに進んで取り組み、自分たちの学校を自分たちの手できれいにしようとする態度を育てる。 ③校外の清掃活動として、なかよし通りや中央公園の「クリーン活動」を実施し、人のために働く喜びや地域への愛着を高められるようにする。	【達成状況】 児童 82.4% 教職員 94.1% 保護者 75.1% 地域住民 100.0% ・児童の肯定的回答率が 82.4%で、目標値を下回った。 ・国語や総合的な学習の時間の中で、学校の特色やよさについて考えることで、学校に愛情をもち、学校を大切にしようとする意識が育った。 ・清掃強化週間では、教職員に周知を図るとともに、放送で児童に声掛けをしたことで、児童がより一層清掃活動に一生懸命取り組む姿が見られた。 ・特に高学年では、「学校の為に」という自覚をもって、清掃や委員会活動に取り組む児童が多かったが、「地域の為に」という部分で、「クリーン活動」などの行事に思いが至らなかったため、肯定的回答率が下がったと考えられる。 【次年度の方針】 ・活動後の振り返りを丁寧に行うことで、児童が学校や地域の為に頑張っているということを自覚できるように支援をする。
	B 6 学校・保護者・地域が一体となって、読書活動の充実に努めている。 【数値指標】 児童 85%	①クラスごとに落ち着いた雰囲気での読書を週 2 回、行うとともに、図書室利用の時間の活用を工夫する。 ②各学年オープンスペースに読書コーナーを設置したり、おすすめの本を奨励したりし、読書に親しめる環境を作る。 ③図書委員や教職員による読み聞かせを月 1 回程度実施する。 ④長期休業中には、親子読書を実施し、読書活動への関心を高めるとともに、読書カードを掲示して、様々な本に興味をもたせる。	【達成状況】 児童 65.1% 教職員 100.0% 保護者 95.5% 地域住民 100.0% ・児童の肯定的回答率が 65.1%で、目標値を下回った。 ・図書館司書を中心に、読書に親しむ活動を多く取り入れられた。 ・定期的に図書室を利用する学級が増加し、読書の時間が確保できたり司書によるブックトークを行ったりすることができた。 【次年度の方針】 ・図書委員を中心に読書推進を啓発する活動に取り組んでいく。
	B 7 教職員は、ほめて伸ばす指導に努めている。 【数値指標】 児童 85%	①長所を伸ばさせるという視点に立ち、児童のよさや得意なことを見つけ、それをほめて伸ばす指導を行う。 ②「まごころカード」を活用し、児童のよさや頑張りを積極的に称賛するとともに、豊かな心を育てる小さな親切運動の推進を図る。 ③学校生活における児童の頑張りの活躍を認め、称賛する表彰制度を行ったり、ホームページや各種たより等を利用して家庭や地域に知らせたりする。	【達成状況】 児童 89.5% 教職員 100% 保護者 86.7% 地域住民 100% ・児童の肯定的回答率が 89.5%で、目標値を上回った。 ・全職員が共通の認識のもと「ほめて伸ばす指導」を取り組む指導に努めた。 ・「まごころカード」などを通して、児童が友達のよさに目を向け、自己肯定感を感じられるようにしてきた。 ・日々の関わりから児童の実態を教職員が把握し、多くの児童が授業や休み時間などで活躍できる場面を設定することで、児童のよさや頑張りを称賛してきた。 【次年度の方針】 ・本校の特色である、児童のよさを認め称賛し、自己肯定感を高める指導を継続していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 教育活動全体状況

- ・評価項目27項目中21項目において、肯定的回答の割合が目標値を上回った。
- ・児童の肯定的回答率は、ほとんどの評価項目で85%以上を示していることから、今年度の様々な教育活動が児童のよりよい成長のために効果を上げたと言える。
- ・令和5年度の結果と比較すると、「児童は、思いやりの心をもっている。」「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」「いじめが許されない行為であることの指導」「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」「児童は、登校班ごとに登校し、安全に注意しながら下校している。」については全ての評価対象者で下回っており、次年度に向けて検討を要す課題となった。

2 学校運営の状況

- ・A13「学校は一人一人が大切にされ、活気があり明るくいいきとした雰囲気である。」では、保護者の肯定的回答率は84.5%と目標値を下回ってしまったが、児童・教職員・地域においては90%以上を示している。今後も児童が主体的に活動できる場を設定し、誰もが居場所のある学級経営に努めていく。
- ・A16「業務の効率化」については、教職員の肯定的回答率は82.4%と目標値を下回ったものの、令和5年度より13.8ポイント上回った。今後も今年度の経験を踏まえ、働き方改革の視点に立った意識改革に取り組んでいく。
- ・A18「家庭・地域・企業との連携協力」については、保護者の肯定的回答率は91.9%と目標値を上回った。学校活動への各種ボランティアの協力依頼を行い、地域の教育力を活用した授業の実践、全市一斉土曜授業の際に企業等と連携した出前講座の実施、地域にある文化施設を授業に活用など、取組の様子を各種たよりや学校ホームページで周知してきた結果と言える。今後も家庭・地域・企業等と連携・協力して計画的・継続的に実践していく。
- ・A19「学校の安全な環境」については、肯定的回答率が教職員・保護者・地域において90%以上を示している。今後も安全点検の徹底や修理等への迅速な対応を心掛け、安心して学校へ登校できる環境づくりに努めていく。

3 教育活動の状況

① 生活

- ・A11「いじめ対策」については、児童の肯定的回答率が95.2%と目標値を大きく上回った。定期的なアンケート調査とその都度教育相談等を行ったことで、いじめを未然に防いだり、早期に解決できたりした成果と考えられる。ただ、保護者の肯定的回答率は80.9%にとどまっている。今後もいじめ対策を強化していくとともに、保護者へも周知するように努めていく。
- ・B1「あいさつ」については、児童の肯定的回答率は89.4%、保護者の肯定的回答率は83.3%で、令和5年度を下回ってしまった。「あいさつ運動」をはじめとした取組を行ってきたが、児童の実態を見ると、校外での挨拶は声が小さくなってしまうたり、挨拶が返せなくなったりするなど個人差がある。今後も引き続き、家庭・地域と連携を図りながら、全校体制で取り組んでいく。
- ・B5「勤労」については、清掃強化週間やクリーン活動を通して、学校や地域のために一生懸命に取り組むことはできているが、児童の肯定的回答率は82.4%と目標値を下回ってしまった。今後も活動後の振り返りを丁寧に行い、児童自身が学校や地域のために頑張っていることを自覚できるように支援していく。

② 健康・体力

- ・A4「健康や安全」に関する肯定的回答率は、児童・教職員・保護者・地域全てにおいて90～100%を示している。外遊びの奨励や運動委員会を中心に元気っ子チャレンジを運営し、運動に親しむ機会を作ってきた結果と言える。また、保健指導については、各学級において養護教諭が積極的に授業に参加し、重点的に指導した効果がでていると思われる。日常の給食指導も徹底され、食の大切さへの意識が高まっている。更に、安全・防災教育では、実践的な訓練を計画的に実施し、自らの命を守る意識が身に付いてきている。今後も登下校時の安全指導や防災訓練を各団体と連携して取り組んでいく。

③ 学力

- ・A14「分かりやすいきめ細やかな指導」について、児童の肯定的回答率は95.1%と目標値を大きく上回っている。高学年での教科担任制の導入や個に応じた指導を行ったこと、家庭学習強化週間の実施により自主学習の意識が高まったこと、そして校内研修等の充実により、学習内容の定着、学力向上が図られた。
- ・A7「宇都宮の良さ」については、保護者の肯定的回答率は74.1%と令和5年度より上回ったものの、児童の肯定的回答率は82.7%と目標値を下回った。今後も校外学習や地域教材、出前授業を通して、宇都宮の良さや特産物などについて、興味・関心を高められるよう取り組んでいく。
- ・A8「デジタル機器や図書等の活用」では、児童の肯定的回答率は85.1%、保護者の肯定的回答率は82.7%と令和5年度より下回ってしまった。端末の持ち運びについては工夫する必要があるが、端末や図書等を活用した実践資料を蓄積

し、授業における効果的な使い方を検討していく。一方、児童への使用の仕方のルール等は折に触れ確認し続けていく。

④ 本校の特色

・A2「思いやりの心」については、教職員の肯定的回答率が91.2%と目標値を上回った。まごころカードなどの取組や道徳科において豊かな心の育成を目指す授業の展開、各学級での互いのよさを認め合う場の設定などを実践してきた結果と言える。

・B2「きまりやマナーを守ること」については、教職員の肯定的回答率が88.2%と目標値を上回った。「みんなのやくそく（生活編）」や生活目標を教職員で共通理解し、同一步調で継続的に指導を行ったり、道徳科の授業においてルールやマナーについての意識付けを行ったりしたことが、児童の規範意識の向上につながったと考えられる。

・B6「読書活動の充実」については、教職員・保護者・地域すべて肯定的回答率が95%以上と高かったが、児童の肯定的回答率が65.1%と令和5年度に引き続き全項目の中でも一番低くなってしまった。児童の様子から読書への関心は高いと感じられるので、図書室の活用や朝の読書タイム、読み聞かせ、お話会、委員会活動や学校図書館司書の活用などを通して、読書推進を啓発する活動に取り組んでいく。

・B7「ほめて伸ばす指導」については、児童の肯定的回答率は89.5%で目標値を上回ったが、昨年度より3.9ポイント下回ってしまった。引き続き、まごころカードや帰りの会での称賛、よさを認めた言葉かけなど、児童を認め励まし、自己有用感や自己肯定感の育成を目指す指導に努めていく。

7 学校関係者評価

・多くの項目が数値指標を達成していることは大いに評価できる。

・学校運営の状況については、相手を認め合いながら、一人一人の良さを褒めて個々の児童を伸ばして育てており、成果が出ている。

・授業の見学や地域と学校共催の行事等に参加し、教員が児童のために真摯に取り組んでいると感じた。

・あいさつについては、低学年の児童の声が小さいが、4・5・6年生は元気なあいさつが返ってきている。地域でも意識をしながら、声掛けを行っていく。

・「あいさつ」や「きまりを守る」ことは、学校だけでできることではなく、本来は家庭教育や地域における人との関わりの中で身に付いていくものとする。学校と家庭と地域の連携が一層重要となる。

・「いじめ防止対策」については、各担当を含めて、全教職員が連携を取りながら対処していると感じた。今後はいじめを言えない児童・保護者がいることも視野に入れて、いじめ防止対策に努めてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・今年度も目標とする指標を概ね達成できたので、次年度も各取組を継続することで、より確実に達成できることを目指していく。課題の見られる項目については、各項目の次年度の方針に従い具体的な取組を実践し、課題の解決に努めていく。

・「宇都宮の良さ」については、社会科や総合的な学習を中心として、児童が宇都宮の良さに気付くことができるように教師が宇都宮の良さを示す補助的な資料を準備するなど、郷土の良さを伝える思いを強くもって指導していく。また、「持続可能な社会」については、教師自身が具体的に把握して指導できるように学校行事や常時活動に言葉を表記するなどの工夫をし、位置付けをしていく。

○地域学校園の共通目標で学校の重点目標である「ほめて伸ばし、自己肯定感を高める指導」については、教職員の評価と比べて児童の自己評価が低い傾向にあるため、まごころカードや帰りの会での称賛、よさを認めた言葉かけなど、児童を認め励まし、自己有用感や自己肯定感の育成を目指す指導に努めていく。また、「認め、励ます指導」を学校と家庭で連携を図りながら取り組んでいく。

○あいさつは、日常の指導とともに、学級活動や道徳等の授業においてあいさつの果たす役割の意識づけをするなど、継続的に指導していく。また、校内の「あいさつ運動」をはじめとして、中学校と連携を図った小中合同のあいさつ運動を今後も実施し、その取組を積極的に配信していくとともに、家庭や地域とも連携して取り組んでいく。

・いじめ防止に向けて、次年度も児童に対して定期的なアンケート調査と、その都度行う教育相談による未然防止、早期対応を継続して取り組んでいく。さらに学校での取組を保護者や地域住民へ周知できるよう、各種たよりの発行やホームページでの配信に努めていく。

・業務改善については、教職員個々の業務の見直しやICTの活用により、校務の効率化と適正化を図る。また、教職員同士の連携を一層深め、教材教具の有効的な作成や活用を行うなど、教職員の意識改革にも取り組んでいく。